

6月定例会

一般質問



6月14日～16日の3日間にわたり、13名の議員から市政に対する一般質問が行われました。質問の一部を抜粋しての掲載で、内容は各議員において編集しております。掲載の順番は質問順です。正副議長につきましては、任期中は申し合わせにより一般質問は行わないこととしております。

キャッシュレスについて



吉越利明議員

問 行政におけるキャッシュレス決済を国では推進しているが、当市の取組と考える。

答 市税、水道料等はバーコード決済が可能である。窓口の決済に関してはDX推進計画で検討したい。

問 地域通貨導入の検討はどうか。しくみや当市における導入効果など、他の分野も含めてDX推進計画にて研究していく。

観光振興について

問 旅行会社と信越9市町村との包括連携協定の展望は。

答 9市町村において需要の回復が見込まれる海外からの観光客受け入れの構築など、様々な分野での連携が図られる事を期待する。

安心安全について

問 消防団に配備されているポンプ自動車は、現在の普通運転免許では運転できないと聞いている。免許取得に関して助成を検討しているかどうか。

答 県内市町村の状況を把握して、今後の団員数確保に向け制度について研究したい。

飯山シャントエの持続化について



山崎一郎議員

問 飯山のジャンプ台は国内の選育育成に重要な役割を果たしているが、老朽化の現実もあり、近年はまた降雪時における公平・公正な競技運営と、寡雪時でも安全で省力化で競技運営出来るようアイストラック化等が求められているが現状と将来への対応は。

答 飯山にはノーマル、ミディアム、スモールヒルの三つのジャンプ台があり、特にジュニア選手の練習拠点として重要な役割を果たし、昨シーズンまでの5年平均で一般を含めた利用は、シーズン当たり延べ2800人で、近年の気象状況から2028年の国体に向け、アイストラック化の検討も必要である。

問 少子化の現状においては一自治体でジャンプ台を維持する時代ではないと思う。関係市町村と連携し、県・国に重要性を伝え持続化に向けて支援を要請すべきと思うが。

答 高額な費用を必要とする特殊スポーツ施設を抱える県内の自治体の負担軽減について、現在市長会を通じ県はもちろん国にも要望活動をしている。

物価高騰に伴う支援及び生活保護について



渡辺美智子議員

問 国からの給付金支援対象者は非課税世帯の高齢者、障がい者、要介護世帯等が前提、課税世帯でギリギリの世帯への市独自の支援ができないか。

答 子育て支援については低所得者として市独自で上乗せし、非課税限度額を上回る方は2倍まで対象にしている。福祉給付金事業については、公平で客観的な基準を確保する必要上、一律非課税で対応。

問 地方創生臨時交付金を活用して学校給食費の軽減が出来ないか。憲法26条2項において義務教育費は無償とされたわれている。県内で無料又は軽減を行っている自治体は29市町村に広がっている。

答 給食費が義務教育費に当たるのであれば国に憲法違反と言うことが筋。国がやらないから市町村が負担するのは筋が通っていないと思う。

問 厚労省ホームページでは「生活保護の申請は国民の権利。生活保護を必要とする可能性はどなたにもある」と記述され市の見解と異なるが。

答 市ホームページの表現が不足していた。厚労省のように更新した。

循環型社会に向けて



久保田幸治議員

問 飯山市の春の代名詞になっている菜の花を菜種の花に代えて観光目的や観賞用だげにとどめず菜種油を販売し、てんぷら廃油をディーゼル燃料に再利用するなど取り組みにより、市民一人一人とも関わり合える好循環社会が生まれるきっかけとなると思うが。

答 この地域は野沢菜の産地であり、菜種油の品種は野沢菜より開花が遅くゴールデンウィーク期間中に開花が間に合わないといった経過もある。

問 野沢菜と交配の心配がないところで取り組みはないか。

答 ゴールデンウィークの観光用として野沢菜の花は重要である。循環型社会を形成していく中で菜種油を採って活用していく、荒廃農地の活用などどうした点からも研究してまいりたい。野沢菜の花が咲き終わった後に菜種の花が咲き、長い間楽しめるといったメリットもある。

問 てんぷら油などの廃油回収でのごみ減量の考えは。

答 岳北広域行政組合にも提案し、岳北全体で研究し勉強を進めたい。

道の駅指定管理者がJAへ転貸しはどうか



飯田健一議員

問 指定管理者は、道路利用者等の休憩の場の提供、相互の交流の促進、地域情報の発信、地域産品、飲食物その他の販売促進に関する業務を行い、農産物直売所などは行政財産の目的外使用として市が直接事業者と契約する方法に改めるべきと思うが、どうか。

答 当市の道の駅で進める営業部分は、基本協定に示す指定事業として位置づけられ、指定管理業務の中に含まれる業務と認識している。

問 ◆過疎地域を救う地域おこし協力隊

問 地域に密着した活動が盛んな長野市などの自治体を見習い、もう一度研究をされたらどうか。

答 飯山市にとって地域おこし協力隊の活動が、地域の活性化に資するようになるように、議員から紹介のあった長野市など、他の自治体の事例などについて継続して研究してまいりたい。

豪雪地飯山で安心して暮らせるために聞く



佐藤正夫議員

問 屋根雪除雪の際の、命綱固定金具設置補助を住宅に限らず、物置車庫まで拡充した件は評価できる。集落の集会所等への補助も考えてほしい。

答 固定金具設置の拡充だけではなく補助金・補助率も大幅に引き上げた。落下の危険は同じなので集落の施設への補助も前向きに検討する。

問 降雪前には克雪会議を開催している。春には反省会を開くことも大切だと思うが。

答 本年は区長・民生委員を通じて実情を調査しているが、次年度以降反省会の実施について検討して行きたい。

問 豪雪のときは区長・民生委員の負担が大きい。なり手が無いようなことを避ける対策が必要だと考えるが。

答 民生委員・児童委員の負担軽減などを検討し、引き受け手が無いという事態にならないように努める。

問 豪雪の後は市外への転出が多い。対策をとるべきだ。

答 冬期間も安心して住める飯山市であるため、住宅の除排雪等に掛かる支援制度や対策の見直しを検討して行く。

観光対策の現状について



岸田真紀議員

問 飯山はアクティビティ推進の重要な要素があり、四季の変化の素晴らしさがある。今後の観光振興に向けた戦略にすべきだと思うがどうか。

答 北陸新幹線が開業してから冬はインバウンドを含めた多くの観光客で賑わった。グリーンシーズンはサイクルツーリズムを図る中で徐々に目に見えて来ている。千曲川北信5市町かわまちづくり推進協議会が取り組むラフティング等水辺のアクティビティなど着実に広がりをみせている。

問 これから暑さが厳しい状況となる。マスクの着用が大変になるが夏場のマスク着用について、市民への周知はどのようなにするのか。

答 国と長野県からそれぞれマスク着用の考え方が示されている。市としても、熱中症の観点から、屋外で近距離での会話がない場合はマスクをはずすことを推奨すると、県が示した目安に基づき市のホームページで現在お知らせしている。今後は防災無線・市報・インターネットなどでも広報をしていく。

千曲川治水事業・農業継続支援他について



高山恒夫議員

問 蓮遊水地への対応は。

答 地権者への意向調査では買取希望57・1割、条件付きで買取14・4割などの結果であった。市としても地元意向に十分配慮し対応していく。

問 遊水地と地域振興など地域づくりへつなげる取組みは。

答 整備後の土地利用方法など地域課題を整理し国と協議しながら検討したい。

問 ◆保育行政

問 今後の適正規模配置等の具体的あり方検討は。

答 城北中学校区統合小学校エリアの4つの保育園で現状と課題について各保護者代表、園長を委員にまとめていく。

問 ◆農業継続支援について

問 小規模農業経営の存在が地域文化を伝承すると指摘もあるが、実態は農業機械の更新も厳しい。支援が必要では。

答 国県補助は農地の集積や作物、所得向上などの条件の中で取組まれている。小規模農家の機械購入をはじめ農業の今後について農業再生センターと一緒に考えていきたい。

問 農業施設の負担金軽減は。要綱改正を準備している。

一般質問

障がい者の安心
安全な地域・都
市交流について



水野正彦議員

問 障がい者用駐車区画の設置状況・対策について。

答 専用区画を設けていなかった地区活性化センターに今年度専用コーンを2台ずつ配布し専用区画の整備をした。今後身体障害者福祉協会とも連携し市内の各施設等へ区画設置の周知を図っていく。

問 新年度からの第6次総合計画に地域共生社会の実現を盛り込んでほしい。

答 市の障がい福祉関連計画などを踏まえ、障がいのある人もない人も互いに違いを認め合う共生社会の実現につながる施策を盛り込んでまいりたいと考えている。

問 都市交流の重要性は。

答 友好都市協定・友好交流都市・観光交流都市・災害時における応援協定があり、観光誘客を含めた市民交流に繋げていけるよう、庁内関係部署と連携を図り引き続き取り組んでまいりたい。特に国分寺市さんは飯山市との観光交流に熱心に取り組んでいただいております、中学生のスキー教室等において飯山市に大きく貢献していただいている。

問 脱炭素社会実現
老朽空き家対策
について

問 先行地域指定へのスケジュールは。

答 環境省に基礎調査の事業を申請中であり、採択後に地域指定に向け実施したい。

問 脱炭素社会実現を目指す条例を制定してはどうか。

答 他市例を参考に、持続可能で活力ある地域社会の構築に繋がる取組を模索したい。

問 小電力発電有望箇所の探索結果は。

答 基礎調査で研究してゆく。湯滝温泉の動力に小水力発電を導入してはどうか。

問 改修を検討する際には研究したい。

答 緊急で対応が必要な物件は市で対策を講じるべきでは。一時的な措置であり根本的な解決には至らない。

問 寺町シンボル広場SL公園として本町へ続く回遊性のまちづくりの進捗状況は。

答 方針は変わっていない。

道の駅、駅前ホテル、児童・生徒のマスク



山崎永林議員

問 市は道の駅でどのような事業展開を想定しているか。

答 農業と観光を融合した施設で産業振興の拠点としての道の駅にモンベル社が出店するが、どう対応するか。

問 基本設計、実施設計の進捗によって管理運営計画を策定している。観光局を道の駅全体の指定管理者とし、店舗部分を業務委託とする予定。

問 店舗、直売所レストラン、販売コーナーは行政財産の目的外使用として、観光局を介さず直接、市との賃貸契約に変更したらどうか。

答 管理・運営条件等明確にした上で観光局を指定管理者とした指定業務としたいと考えている。

問 駅前ホテルでの健康増進プログラムとは何か。

答 健康増進プログラムは健康づくりや体力向上を目的に個別に提供するプログラム。現在ホテルと協議をしている。

問 登下校時はマスクが必要とは思われないが教育委員会の考えを聞きたい。

答 国や県からの通知等を参考に状況に応じた対策の継続が基本的な考え方である。

太田地区農業再生センターについて



松本淳一議員

問 昨年の12月、北信濃新聞に、太田地区で「農業再生センター」が主催し「太田地区の将来を語る会」が開催されたと載っていた。どのような事が話し合われたか。

答 次世代に引継ぎのできる太田地区農業の再生。元気で輝く太田地区の実現に向け、目指すべき将来像を明確にし地域で共有するための将来ビジョンを作成するなど、話し合われた。

問 農林課ではこの取組みをどのように評価されているか。

答 若手農家と経験豊富な農業経営者との意見交換が、ことでお互い良い刺激になったと感じている。また、太田地区の特徴を活かした大変良い取組みであったと捉えている。

問 太田地区の将来像が示された。実現に向け、飯山市農業再生協議会の協力は。

答 テーマ別の話し合いのグループが、目標実現に向けたプロジェクトチームとして主体的に取り組んでいこうと確認された。協議会としても実現に向けた活動に協力したい。

政治姿勢と6月補正予算について



石田克男議員

問 ウクライナ危機に乗じて「核共有」が言われ、さらにコロナ危機による景気の低迷、生活の困難が長期に及んでいくところにガソリン、食料品、電気料金などの物価高騰が襲いかかり、今冬の豪雪も加わり深刻な打撃を受けている。6月議会は、市民の暮らしにたいのち・平和を守る施策に展開が求められる。6月議会にのぞむ市長の決意と政治姿勢を伺う。

答 ロシアの軍事侵攻について、いま世界では安全保障の見直しが言われているが、国政の場において各政党がしっかりと議論を望む。6月補正については国の交付金を活用し、安心して暮らせるよう市政を推進していきたい。

問 臨時交付金を活用した6月補正予算と、プレミアム商品券発行事業などの特徴は。

答 市民への家計支援を目的にプレミアム率20割付の1冊1万2000円使用できる商品券を1万円で販売する。またバスやタクシー事業者への事業継続支援補助を考えている。

政治姿勢と6月補正予算について



小林喜美治議員

問 政治姿勢について

答 ウクライナ危機に乗じて「核共有」が言われ、さらにコロナ危機による景気の低迷、生活の困難が長期に及んでいくところにガソリン、食料品、電気料金などの物価高騰が襲いかかり、今冬の豪雪も加わり深刻な打撃を受けている。6月議会は、市民の暮らしにたいのち・平和を守る施策に展開が求められる。6月議会にのぞむ市長の決意と政治姿勢を伺う。

答 ロシアの軍事侵攻について、いま世界では安全保障の見直しが言われているが、国政の場において各政党がしっかりと議論を望む。6月補正については国の交付金を活用し、安心して暮らせるよう市政を推進していきたい。

一般質問

市議会の意見 交換会を開催

7月6日、飯山商工会議所との意見交換会を開催しました。

今回行った意見交換の中では駅前ホテル建設についての現状や建設後の地域経済への波及効果、展望などの思いが話されました。

また、ゼロカーボンに向けたエネルギー削減方法や、エネルギー資源活用の提案、統合による空き校舎の利活用についてなどの意見が出され有意義な意見交換となりました。



管外行政視察報告

○富山県 立山町
*モンベル立山出店の経緯と町の関わり

立山連峰で開催された「アルペンヒルクライム」の支援を契機に「モンベル」と立山町は、アウトドア活動等の促進を通じた地域の活性化と町民生活の質の向上を目的に平成29年10月に包括連携協定を締結し、モンベル立山店の出店となった。
*出店後の町との連携
①令和3年より、町の観光振興の指針「立山ブランド



立山町議会岡田議長あいさつ

産業民生常任委員会では、7月25日・26日に富山県立山町・岐阜県美濃市を訪問しました。(報告者 山崎産業民生常任副委員長)

デザイン」策定。

②小学生が使用する軽い通学用のかばんの開発を依頼。(リュックサック式カバンを来年度から全児童に無償配布することに決定)

③トレッキング、サイクリング、カヤックなどで各地の自然や歴史・文化、人との交流を楽しむ「ジャパンエコトラック」への登録の支援に現在取り組んでいる説明があり、当市が道の駅「花の駅 千曲川」で取組む計画であるアウトドアに関連する視察となりました。

○岐阜県 美濃市
*学校統合による廃校の利活用

美濃市は当市と人口規模も出生数も同じ状況にあって、平成13年から平成24年までに小学校11校を5校に、中学校3校を2校に統合した。廃校の利活用として生涯学習施設に転用した校舎、民間事業者が特別



館内を視察し、美濃和紙用具の説明を受ける

本会議を傍聴する方へお願い (新型コロナウイルス感染拡大防止について)

本会議については「iネット飯山」での放送および「YouTube」にて動画配信を行っております。本会議を傍聴される方は、席の間隔をあけてお座りいただき、必ずマスクを着用ください。(入場者数の制限あり)

令和4年9月定例会
会期日程(予定)

- ◆招集・議案上程 8月30日(火)
- ◆一般質問 9月7日(水)
- ◆各常任委員会審査 9月12日(月) 16日(金)
- ◆委員長報告・採決 9月22日(木)

◆◆ 飯山市議会本会議の動画を配信 ◆◆

☆ 受信方法 ○飯山市議会ホームページ 本会議動画配信ページ
○YouTube「飯山市議会」チャンネル

こちらのQRコードから